

訂正表

第1章

p. 6 表1. 3 ポリエチレンテレフタレート (PET) の化学構造式の中のメチレン鎖の数が正しくは2個

誤	正
$\cdots-(\text{CH}_2)_4-$	$\cdots-(\text{CH}_2)_2-$

第2章

p. 19 図2. 9のキャプション

誤	正
ポリオキシエチレン…	ポリオキシメチレン…

p. 26 1. 4

誤	正
球晶 (spherulite)	球晶 (spherulites)

第4章

p. 78 1. 10

誤	正
図 4.14(b)	図 4.14(a)

p. 86 図4. 28

誤	正
<p>図 4.28 ICP 材料の例</p>	<p>図 4.28 ICP 材料の例</p>

p. 89 1. 11

誤	正
Clausius-Mosotti	Clausius-Mossotti

p. 90 1. 14

誤	正
変位導電流	変位電流

p. 92 1. 16

誤	正
…高分子固体では屈折率大きくなる.	…高分子固体では屈折率が大きくなる.

## 第5章

p. 103 1. 25 (例題1の解)

誤	正
モノマー数 (官能基数) $N_0$	モノマーの分子数 $N_0$

誤	正
残存するモノマー数 (官能基数) $N$	残存する分子数 $N$

p. 103 1. 28 (例題1の解)

誤	正
モノマーの反応度	反応度

p. 105 1. 5

誤	正
重合度	重合度 $x$

## 第6章

p. 143 1. 10 (例題3の解)

誤	正
熱可塑性は不可逆な	熱可塑性は可逆な

p. 145 プレポリマーの構造式

誤
正

p. 146 ポリウレタンの図

誤	正

## 第7章

p. 168 1. 2、

誤	正
5. 1. 1項参照	5. 2. 1項参照

p. 170 1. 18

誤	正
5. 1. 2項参照	5. 2. 2項参照

p. 173 1. 22

誤	正
…Δ Sを高めるためには…	…Δ Sを小さくするためには…

p. 175 1. 1

誤	正
5. 1. 1項参照	5. 2. 1項参照

p. 175 1. 2

誤	正
…テトラカルボン酸…	…芳香族テトラカルボン酸…

p. 175 1. 8

誤	正
…開発がおこなわれているポリアミド…	…開発がおこなわれている。ポリアミド…

p. 175 反応式中のプロメリット酸の前に  $n$  を入れる。

p. 176 1. 12

誤	正
ポリイン ( $\cdots\text{C}=\text{C}=\text{C}=\text{C}\cdots$ ) で $180^\circ$ である。ポリインは不飽和結合の連続であり、化学的に不安定である。	ポリイン型 ( $\cdots\text{C}\equiv\text{C}-\text{C}\equiv\text{C}-\text{C}\cdots$ ) やクムレン型 ( $\cdots\text{C}=\text{C}=\text{C}=\text{C}\cdots$ ) で $180^\circ$ である。

p. 177 例題1の解

誤	正
$L = nrcos\alpha$	$L = nrcos\theta$

p. 184 反応式中のPBOの左側のオキサゾール環のCO結合が単結合、CN結合が2重結合。

p. 185 表7. 10 表の上段が引張り弾性率、下段が引張り強度である。

誤	正
引張り強度 [GPa]	引張り弾性率 [GPa]
引張り弾性率 [GPa]	引張り強度 [GPa]